

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 005	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 家畜ふんたい肥の経済性評価	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】  ・令和6年度から三浦半島地域で、農業技術センター、畜産課、畜産技術センターが連携し、家畜ふんたい肥流通の円滑化を目的とした事業を実施している。その中で、耕種農家の高齢化や担い手不足により、家畜ふんたい肥の運搬・散布に労力をかけられないため家畜ふんたい肥の使用を長年中止している方も多く、地力の維持・回復をはかるための土づくりが課題となっていることが再認識された。また、化成肥料の価格高騰もあり、家畜ふんたい肥を見直す機運も出てきている。 ・そこで、三浦半島地域の主たる作型（キャベツ・ダイコン等）での、家畜ふんたい肥の施用にあたり、経費（土壌改良による効果等）や、散布労力等の経済性を明らかにして頂きたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部、三浦半島地区事務所
対応区分	①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>家畜ふんたい肥の施用の経費については、たい肥や使用機材等の価格が明確になっています。また、土壌改良による経済的効果は、短期間で明らかにすることが困難です。</p> <p>散布労力等の経済性については、現在、有機物投入の主力となっている有機物を配合した資材（混合堆肥複合肥料、濃縮堆肥、腐植酸資材）散布と比較して、労力及び時間が掛かることが明らかであることや、当該地域の家畜ふんたい肥施用量の減少は、労働力不足に起因しており、これを踏まえた上での畜ふんたい肥の施用促進について、さらに関係機関と検討していく必要があると思われます。</p> <p>こうしたことから、試験課題として実施することは困難ですが、当該地域における事業推進において、家畜ふんたい肥の施用の経費や、散布労力等の経済性を検証する際には、調査について協力します。</p>		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			